

永野小学校・学校だより(11月)

『型』も大切に

副校長 小泉啓治

時々担任の休みや出張で、代わりに教室へ行くことがあります。大抵学習することの用意はできていますので、子どもたちが頑張っている姿を見守ったり、相談に来たときに答えたりするくらいですが、それでも教室にいるいろいろなことに気がつきます。

先日低学年のある教室へ行って、プリント学習を進めているところを見ていたら、?????と思ったことがありました。それは鉛筆の持ち方です。程度の差はありますが、3人に1人くらいはどうも違った持ち方をしています。鉛筆の持ち方や箸の持ち方については、自分が子どもの頃は家でもずいぶんうるさく言われたことを覚えています。それに比べて、近頃のご家庭ではあまり気にされないのでしょうか。

何かの言葉で、「守・破・離」というのを聞いたことがあります。物事を習うということは、まず型から入ることが大切(守)で、それが身に付いてから自分流へと型を破り(破)、自分なりの型を確立する(離)という意味のようです。そういわれてみれば、自分も子どもの頃にうまく書けなかった字が、正しい書き順を知ったら、形がとても整ってきた記憶があります。「必」「飛」という字がそうです。今後肉筆で文字を書く機会はますます減ってくるのですが、大切な手紙までパソコンというわけにもいかないでしょう。正しい鉛筆の持ち方から美しい字を書くこともやはり大切なことだと思います。型をきちんと修めていくことももう一度見直してみたいと思います。

型と言えば、このごろ文部科学省やPTAの全国組織などが提唱している『早寝早起き朝ご飯』が思い浮かびます。子どもたちは(に)早寝早起きをしましょう・させましょう。そして、きちんと朝ご飯を食べましょう・食べさせましょうという運動です。最近の子どもたちの生活パターンの乱れ、特に夜型の生活や朝食抜きの食生活を何とかしようという運動です。以前は、時間割を考えると、集中力を要する学習は1時間目にと言われたものでした。しかし、最近は1時間目は生あくびをしている子がたくさんいると言われていました。体格は大きくなったのに体力は低下していることとも無関係ではないでしょう。先日も、朝ご飯をきちんと食べている子どもたちの方が、そうでない子どもたちよりも、ずっと学力テストの成績がよかったという報告が新聞に出ていました。(これは、単に朝食だけの問題ではなくて、生活のあり方全てにかかわっている部分もあると思いますが)そんな背景があつての運動でしょう。子どもたちの姿を夜遅い町の中で見ると、確かにこの呼びかけは必要だと感じます。毎日の生活を時間で区切っていくことも一つの型といえるかもしれません。

いずれにしても、かつての『型』第一主義に対する反省や反発から、過度に型を無視しようとした歴史があるのかもしれませんが、子どもたちの意識や生活が大きく変わってきている今日、子どもたちにとって(大きく言えば日本の文化にとって)必要な型、そうでない型について、しっかり考えていきたいと思います。